

から、とくに精製されたヒトヘモグロビン抗原による特異性の検討を進めている。

2. 学会報告

1) 沢田英夫, 浅野進吾, 籠谷秀翁: 細胞障害誘発に対する Triton X-100 の影響, 第98年会日本薬学会総会, 1978. 4, 岡山.

2) 須山弘文, 中園一郎, 大谷勲: ヒト sperm diaphorase の多型について, 第62次日本法医学学会, 1978. 5, 仙台.

3) 大谷勲, 籠谷秀翁: 細胞障害に関する基礎的研究第I報: 非イオン性界面活性剤の膜障害, 第23回中部鑑明会北陸地区分科会, 1978, 7, 富山.

4) 大谷勲, 籠谷秀翁: 皮下出血が描くパターンの発生機序および成傷器の推定について, 第28回日本法医学学会九州地方会, 1978. 10, 福岡.

5) 大谷勲, 籠谷秀翁: ヒト精漿中の5'-AMPase 活性について, 第25回日本法医学学会近畿地方会, 1978. 10, 津.

6) 大谷勲, 籠谷秀翁, 山口弘信: 水疱形成のみられた圧死の1例, 第53回東北法医学談話会1978, 11, 秋田.

7) 大谷勲, 籠谷秀翁: 細胞障害に関する基礎的研究第II報: 非イオン性界面活性剤の細胞形態に及ぼす影響, 第23回中部鑑明会総会, 1978. 11, 津.

内 科 学 (1)

教授 矢野三郎
助手 加藤弘巳
助手 藤井隆彦
助手 鈴木英彦

1. 研究概要

1) 内分泌・代謝

下垂体副腎系については長年の研究テーマであるステロイド剤の投与方法に関する研究をまとめて内科学会雑誌に発表した。その他、各種条件下の内分泌動態について研究をつづけ、「やせ」と成長ホルモン、性腺ホルモンの関係、抗アルドステロン剤投与時の性腺ホルモン値の変動、サルコイドーシス患者の血中プロラクチン値測定の意義等について報告した。また、女性ホルモンの酵素免疫測定法に関しては文部省科学研究費を得て研究を続行中である。

2) 免疫

数年前から性ホルモンと免疫というテーマで研究をつづけているが、今年度は男性ホルモンのリンパ組織に対する影響について検討し、テストステロン

がT細胞系、B細胞系を共に抑制するという事実を明らかにし、内分泌学会に報告した。

3) 化学療法

各種化学療法剤の酵素免疫測定法について抗体の作成法、酵素標識法などを検討し、ペニシリン系薬剤、ゲンタマイシンなどの血中濃度を超微量のサンプルで測定し得る方法を完成した。その結果はウルム(西独)で行われたシンポジウムなどにおいて報告したが、現在、臨床レベルの応用について研究を継続中である。

付記: 以上の研究はいずれも阪大第3内科、長崎大学薬学部、日生病院との協同研究である。

2. 学会報告

1) 加藤弘巳, 矢野三郎, 浅沼克次, 吉川陽子, 沢田洋介, 北川常広, 谷山兵三: ゲンタマイシンの酵素免疫測定法の開発, 第98回日本薬学会, 1978. 4, 富山.

2) 金丸哲宏, 若松秀樹, 北川常広, 加藤弘巳, 矢野三郎, 浅沼克次: ペニシリン服用時の血中濃度測定の試み, 第98回日本薬学会, 1978. 4, 富山.

3) 加藤弘巳, 森本靖彦: 「やせ」とGH, 下垂体性腺系, 第51回日本内分泌学会ワークショップ, 1978. 6, 東京.

4) 宮武明彦, 野間啓造, 中尾皖英, 森本靖彦, 山村雄一, 矢野三郎: Spironolactone 投与時の男子性ホルモンレベルに関する検討, 第51回日本内分泌学会, 1978. 6, 東京.

5) 浅沼克次, 藤井隆, 中尾皖英, 植村泰三, 矢野三郎, 山村雄一: 性ホルモンと免疫(第3報)ラットリンパ組織の発育に及ぼすテストステロンの影響, 第51回日本内分泌学会, 1978. 6, 東京.

6) 金丸哲宏, 北川常広, 加藤弘巳, 矢野三郎, 浅沼克次: ペニシリンの新しい超高感度の血中濃度測定法の開発に関する研究, 第26回日本化学療法学会, 1978. 6, 東京.

7) 河野通昭, 香西勝人, 鈴木英彦, 森久, 螺良英郎: 担癌動物の感染における好中球機能と真菌々体及び多糖体の影響, 第26回日本化学療法学会, 1978. 6, 東京.

8) Kitagawa, T., Kanamaru, T., Kato, H., Yano, S. and Asanuma, Y.: Novel enzyme immunoassay of three antibiotics. Symposium of Enzyme Immunoassay, 1978. 7, Ulm, W. Germany.

9) 北川常広, 金丸哲宏, 三浦孝子, 矢野三郎, 加藤弘巳, 浅沼克次: ハプテンの新抗血清作製法と酵素免疫測定法によるその性状の検討, 日本免疫学会, 1978. 11, 京都.

10) 金丸哲宏, 北川常広, 加藤弘巳, 矢野三郎, 浅沼克次: ゲンタマイシンの酵素免疫測定法とその応用, 第18回臨床化学シンポジウム, 1978. 12, 大阪.

3. 原著

1) 森本靖彦, 花崎信夫, 宮武明彦, 中尾皖英, 野間啓造, 八倉隆保, 山村雄一, 有末一隆, 立花暉夫, 矢野三郎: 慢性疾患ステロイド治療時の副腎皮質機能抑制に及ぼすステロイド製剤の種類, 投与量, 投与方法の影響について, 日本内科学会雑誌. **67**: 57-68, 1978.

2) Nakao, K., Noma, K., Sato, B., Yano, S., Yamamura, Y. and Tachibana, T.: Serum prolactin levels in eighty patients with sarcoidosis. *European J. of Clinical Investigation*, **8**: 37-40, 1978.

3) 加藤弘巳, 矢野三郎, 浅沼克次, 金丸哲宏, 若松英樹, 北川常広: ペニシリンの酵素免疫測定法. 臨床化学シンポジウム **17**: 91-95, 1978.

4) Kitagawa, T., Kanamaru, T., Wakamatsu, H., Kato, H., Yano, S. and Asanuma, Y.: A new method for preparation of an antiserum to penicillin and its application for novel enzyme immunoassay of penicillin. *J. Biochem.* **84**: 491-494, 1978.

5) 植村泰三, 藤井隆, 中尾皖英, 浅沼克次: 原発性甲状腺機能低下症に伴った乳汁漏出無月経症候群. 日生病院医学雑誌 **6**: 115-124, 1978.

6) 山村雄一, 国府達郎, 上田英之助, 矢野三郎, 森本靖彦, 小西池稜一, 山本実, 柏村茂, 吉田茂: 内科領域の不眠症治療に関する研究. 治療 **60**: 1035-1038, 1978.

4. 総説

1) 矢野三郎, 浅沼克次, 藤井隆: 免疫異常とカリクレイン・キニン系, 日本臨牀. **36**: 2922-2926, 1978.

2) 矢野三郎: 内分泌機能の遺伝的障害——分泌異常と受容体異常——代謝, **15**: 735-742, 1978.

3) 矢野三郎: 主要医薬品の副作用: 副腎皮質ホルモン剤について, *MEDIC* **13**: 13-16, 1978.

4) 矢野三郎: ステロイド療法の問題点, *ミノファゲン・メディカル・レビュー* **23**: 233-243, 1978.

5) 浅沼克次, 植村泰三, 中尾皖英, 藤井隆: 女性ホルモンと免疫, 日生病院医学雑誌. **6**: 1-15, 1978.

6) 植村泰三, 藤井隆, 中尾皖英, 浅沼克次: ペ

プチドホルモン産生細胞とAPUD系細胞の概念, 日生病院医学雑誌. **6**: 17-30, 1978.

5. 著書

Kitagawa, T., Kanamaru, T., Kato, H., Yano, S. and Asanuma, Y.: Novel enzyme immunoassay of three antibiotics. New methods for preparation of antisera to the antibiotics and for enzyme labelling using a combination of two heterobifunctional reagents. *Enzyme Labelled Immunoassay of Hormones and Drugs*. ed. by S. B. Pal, p.59-66, Walter de Gruyter & Co., Berlin. New York, 1978.

6. その他

1) 矢野三郎: 尿崩症. 薬の知識 **29**: 21, 1978.
2) 矢野三郎: 高コレステロール血症など約50項目, 医学大辞典, 南山堂, 1978.

内 科 学 (2)

教授 杉 本 恒 明
助教授 水 村 泰 治
助手 浦 岡 忠 夫
助手 寺 田 康 人
助手 高 田 正 信

1. 研究概要

1978年における教室員各自の研究活動の内容は以下の如くである。

杉本: ①不安定狭心症の臨床 (成人病学会シンポジウムその他で発表), ②左室収縮時間の基礎と臨床 (脈波学会総会特別講演), ③ヒトの心臓の電気生理学的性質とそれに対する薬物作用 (世界心臓学会その他にて発表), ④心室細動の発生要因に関する実験的研究 (現在進行中)。

水村: ①急性尿細管壊死の乏尿期および利尿期における小分子タンパクの動態 (腎臓学会西部会発表予定), ②急性尿細管壊死の回復期の水・Na再吸収能 (現在進行中)。

浦岡: ①僧帽弁閉鎖不全における解剖学的異常と機能的異常の関連 (臨床心音図研究会, 循環器学会北陸地方会で発表), ②杉本の課題④を共同で研究中。

寺田: 体表面心臓電位分布図法による心筋梗塞の梗塞部位と血管病変の局在との関係 (現在進行中)。

高田: ①実験的腎血管性高血圧の成因 (国際腎臓学会発表), ②本態性高血圧患者におけるNa排泄